

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2296900075		
法人名	医療法人社団木野記念会		
事業所名	グループホームつどい 1階ユニット		
所在地	静岡県磐田市一色25-1		
自己評価作成日	平成30年6月18日	評価結果市町村受理日	平成30年8月1日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaijokensaku.mhlw.go.jp/22/index.php?action_kouhou_detail_2017_022_kani=true&JigyosyoCd=2296900075-00&PrefCd=22&VersionCd=022
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社第三者評価機構 静岡評価調査室		
所在地	静岡県葵区材木町8番地1 柴山ビル1F-A		
訪問調査日	平成30年7月10日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

施設内に生け花を設置。外の芝生広場には約30鉢の盆栽があります。梅や桜、つつじにバラ、紫陽花、秋には紅葉ドライブへと外出。敷地内の畑では、じゃがいもに始まり夏野菜(なす・ピーマン・トマト・南瓜…)やさつま芋と、土作りから秋の収穫まで一年を通して農作業を行っています。外の空気に触れ、四季折々の花木観賞や自分達で収穫した新鮮野菜を食し、四季を感じて過ごしています。また恒例行事となる夏の流しそめんや秋の焼き芋・芋煮会も入居者・ご家族・地域の皆様と一緒に楽しんでいます。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

法人全体が「朝8時～10時くらいの朝陽を浴びる」ことを推奨しています。海の家にあるような葦葦でつくった涼み処で和む人たち、畑の胡瓜を収穫して「やれやれ」とひと休みのグループと朝から活動に弾みがあり、訪れる人たちにも目で利用者の壮健さがわかります。畑は胡瓜のほかにゴーヤ、ミニトマト、ピーマン、南瓜と豊作で、今年は「火曜日と金曜日を畑で採れた夏野菜を使ったメニュー」として、太陽の恵みがたっぷり詰まった食事が提供されています。地域との関係も年々深まり、津波避難の場所としての認識が生まれたことで、防災訓練では南田地区から年々参加者が増えています。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごしている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	施設理念を玄関や2Fエレベーターホール、スタッフ室内に掲示して、理念の実現に向けて努力している。	理念に基づいて予め定めた事業所の年間目標があります。それらをベースにユニット毎に月間目標をつくり、反省点も毎月挙げてPDCAサイクルに乗せていて、日々向上する仕組みがあり、職員の記述からは熱心さが伝わります。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	法人合同開催による夏祭りや、地域の秋祭りへの参加、年2回実施する地域交流会の開催。地域防災訓練にて、地域の避難場所として施設の屋上も利用されている。	開所当時から地域交流会として夏は流しソーメン、秋は焼き芋と、子どもをはじめ近隣の皆さんと愉しんでいます。また津波避難所としての認識が浸透し、防災訓練では南田地区から年々参加者が増えています。	参加者が増えている南田地区の皆さんと、さらに1歩踏み込んだ防災企画等が実践されたら、なお良いと思います。
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域ケア会議への参加を通して事業所の特徴を知っていただく。運営推進会議にて日頃の活動報告をしている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	会議では日々の生活の様子や活動状況を報告している。皆さまのご意見を参考にしてサービスの向上につなげている。	議事進行については、これまで主だった報告を削り、「来月これをやるけど、どうしたらいい～」というように出席者に意見を募り、運営に加わってもらうような姿勢へと変容しています。自治会長や民生委員からも活発な進言があり、盛況なことが議事録から観えます。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	月初めに入居状況の報告をしている。市職員への相談・助言・指導を受けて対応している。	地域の認知症対応の事業所と地域包括支援センターの有志で「ふくでFive」を結成し、その成果の1つとして「おほカフェ」という交流の場が本年からスタートしました。場所は本事業所の併設施設が提供し、包括が核となって30名余が賑わう集いとなり、今後に期待が膨らみます。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	施錠はせず職員で協力して見守り対応している。同法人内の勉強会に参加し理解を深めている。委員会を設置し、運営推進会議での検討・報告をしている。	法令に則り「身体拘束等の適正化のための指針」を見直して、運営推進会議のなかで「身体拘束等の適正化のための対策を検討する委員会」を一体的に設置・運営することとし、6月に第1回を開催しています。事業所の課題を明確にするための研修会も年2回計画しています。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	定期的に勉強会への参加にて、防止に努めている。		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	定期的な勉強会への参加にて理解を深めている。現在、成年後見制度を利用されている方もあり、保佐人と連絡をとり合って支援している。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又はや改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入居前に重要事項説明書・契約書を交付し、説明と同意を得ている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	苦情・意見箱を設置し、窓口を明確にしている。	請求書発送の際には通信を添え、日頃の様子が分かるアルバムも用意し、また地域交流会と家族会を併催したり、サービス担当者会議にも同席してもらい、家族との関係作りを進めています。運営推進会議は各ユニット交互に利用者も話に加わり、感想を述べてもいます。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	日に30分程度時間を要し様々な内容の会議を行っている。意見交換や情報の共有を図っている。年2回の職員面談を実施している。	13時半から14時の時間帯は利用者の皆さんが午睡等まどろんでまったりしていることもあって、そこを活用して毎日ミーティングするに至り、漏れがなくなり情報の共有力が高まっています。一方で休憩時間の摂り方等現場サイドのことはユニットに任せ、自主性を重んじています。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	就業規則に準じて働きやすい環境作りに努力している。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	職員教育チェックリストにて定期的に確認している。同法人内で開催される勉強会への参加。認知症介護実践者研修等外部研修への参加も進めていく。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	事業者連絡会議や地域ケア会議への参加。地域包括支援センターと地域密着型事業所の代表者が集まって話し合い、情報交換している。		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	安心して入居できるように、場合によっては複数回の面接機会を設けて対応している。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	いつでもご相談受けることを説明し、可能な限り時間外での対応・訪問も受けられるように努力している。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	相談を受けた際、併設施設の医師や看護師、OT、栄養士等と連携し、その方に合ったサービス提供が出来るように努力している。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	基本理念のもと、個人を尊重し支え合いを大切に生活支援に努めている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	面会時は本人とゆったり過ごしていただける配慮をしている。個人アルバムを作成し面会時ご家族に報告している。施設のお便りにて活動報告をしている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	馴染みの場所(美容室など)や友人との交流が継続できる支援を心掛けている。	隔月に1度は夫妻で自宅に泊ってきたり、友人との旅行、遠方(神戸)のキーパーソンが定期的に足を運んでくださる等、「施設に入ってしまった」感がない生活を過ごしています。書道の師範が皆と一緒に嗜んだり、旧式のそろばんで事業所の買い物の帳面をつけたりする人もいます。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	食事テーブル席を工夫して良好な関係作りに努めたり、外出時のグループ分けにも配慮している。		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	電話連絡にて状況確認をしたり、年2回開催する地域交流会の案内をお知らせしている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	聞き取りによる意向と日々の行動を照らし合わせて、言葉にならない思いを感じ取り、都度意向の確認をするように努めている。	個別ケア会議を毎月ユニット毎に実施し、「会議の目的」「方法」を明記したゴールの見える有意義な場と成っています。手法は模索中として「センター方式」「ひもときシート」「認知症ケア学会事例検討シート」「福祉医療機構認知症安全トレーニング」と多様な書面を試用しています。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	本人からの聞き取りや家族・ケアマネからの情報をすり合わせて、今までの暮らしの把握に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	包括的自立支援プログラムやセンター方式でのアセスメントを実施している。計画作成者だけでなく各担当者もアセスメントを行っている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	日に30分設定している会議にて個別援助計画を発表、必要時にモニタリングや介護計画の見直しを行っている。	計画作成担当者となれる人は5名と豊富で、本件に係る知識・理解を向上させようと今後も認定研修への参加者を増やしていく予定です。アセスメントも「深く探求するためにも」と多様な方法を取り入れていて、介護計画の質の向上を図ろうとする姿勢が満ちています。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	記録マニュアルにそって個別記録を記入している。また申し送り事項を事前にも確認することで情報収集を行い、日課のチェックリストで実践に活かしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	個人の体調・状態であったり、本人の希望に応じて生活支援している。受診や外出等も可能な限り対応している。		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	消防・地域包括・市役所・自治会等意見交換している。ボランティア団体による行事も計画。地域住民へ参加の呼びかけをしている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人や家族の希望を重視し、かかりつけ医師の継続と受診の付き添いを行い、緊急時の対応について予め主治医に確認をしている。	毎週(個人の受診は月2回)来所の協力医に大半が変更となり、従来のかかりつけ医を続けるのは6名です。併設の老健には看護師が大勢いますが、本年から事業所の看護師が入職し、職員の更なる安心につながっています。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	併設施設の看護師が週2～3日訪問。日常的な健康管理や状況に応じた連絡・相談体制が整い、24時間連携できている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入居可能な状態か病院や家族との情報を集約し、担当医師や看護師とも相談し、今後の受け入れについて検討している。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居契約時に、重度化した場合の対応に係る指針を家族へ説明と同意を得ている。また救急搬送時の情報提供書についても年度毎に確認・更新している。	今年度から医療連携加算をとる体制を整え、新たに「重度化した場合の対応に係る指針」とともに「救急搬送時の情報提供書」を用意しています。本年1年かけて家族には個別にあらためて説明する予定です。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	同法人内で行われる救急法講習会に参加している。緊急時の対応マニュアルは、いつでも見られるようスタッフ室に用意している。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回の避難訓練以外にも、津波に備えて階段を使用して入居者を2階へ誘導する訓練を、全職員が参加するようにしている。地域防災訓練では、地域住民が施設の屋上へ上がり活用している。	年2回の法定訓練は春を火災、秋は地震想定としていますが、水害対策にも備えるよう「雨季に入る前の春に津波の訓練を」ということも検討しています。全員ができるように、訓練前の10日間位かけて一人ひとりの職員が練習を繰り返して身につけるよう努めています。	開所当初に1度入ってもらった後、途絶えているため、消防署の立ち合いを求めることを期待します。

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	人格を尊重した言葉かけや対応に配慮している。	言葉遣いが気になる場合は、管理者が都度注意を促しています。来訪者と目が合えば挨拶が自然にでき、利用者には「どうしました?」「～しましょうか」「〇〇さん、お願いできますか?」といった承認が伴う言動が職員に身につけて、安心が滲みます。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	本人の訴えに耳を傾け、望みを汲み取り、出来る限り意にそえるよう支援している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	個人のペースに合わせた対応を心掛けているが、趣味・嗜好活動の提供について課題があり、委員会担当を決めて取り組んでいる。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	本人の希望や定期的な理美容を行っている。季節ごとの衣替えは、家族とも相談しながら、本人の好みを尊重した調整をしている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	献立表を設置し、嗜好に合わせて個別の対応をしている。食事の支度・片付け等出来る範囲で職員と一緒に。月2回の料理人訪問にてセレクトメニューも充実している。	今年は「火曜日と金曜日を畑で採れた夏野菜を使ったメニュー」として、水曜日は昨年に引き続きプロの料理人に刺身や天ぷらなどを調理してもらいセレクトできる楽しい日となっています。節分の恵方巻き、バレンタインのチョコフォンデュ、おせち料理と行事食もあります。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	併設施設の管理栄養士から助言をいただいたり、食材はカロリーや塩分バランスが整っている宅配業者を利用。畑で収穫した新鮮野菜も。食事・水分量のチェック、個人に合わせた補助食も使用している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	併設施設の歯科衛生士の指導・助言の下、口腔ケア・口腔内の確認をしている。		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄表を活用して、個別援助の実施。本人や家族の希望に沿った対応をしている。	個別ケア会議の充実が生活援助に大きく寄与していて、特に排泄はそれぞれ症状が異なっていますが本人本位な対応が自然に叶っています。便秘対策として就寝前にヨーグルトは開設以来続けていて、薬が減った利用者もいます。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	毎日の散歩・体操にて身体を動かしている。毎晩、ヨーグルトをつけて便秘予防に努めている。個別の排便表を作成し対応している。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	個人の希望・都合・気分等に合わせ、柔軟な対応にて入浴している。	3面から脚を入れることができる浴槽ですが、入りやすくするためにも左右どちらかは台座で埋めています(麻痺の人がいれば置き換える)。シャンプー等消耗品は個人でボックスに分かれて保管され、洗濯機も個別に廻され清潔のクオリティを高く保っています。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	午前・午後と休憩時間を設けている。就寝時間は本人の希望に合わせて対応している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	個人の内服薬管理、服薬表を療養記録に保管し、職員がいつでも確認できるようにしている。健康状態に応じて主治医と連絡を取り、医師の指示にて内服支援している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	本人の負担にならない程度に、お掃除や食事支度・後片付け・洗濯等、個人の役割をもって行っている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるよう支援している	本人や家族の要望に応じて対応している。買物や旅行・地域行事への参加ができるよう取り組んでいる。	「四季を感じて欲しい」として月2回程度はドライブ外出があります。海の家にあるような葦簾でつくった涼み処で和む人たち、畑の胡瓜を収穫して「やれやれ」とひと休みのグループと、朝から戸外活動に勤しんでいることを訪問時にも視認しました。	

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	基本は施設で管理している。希望される方は、本人・家族と相談し、同意を得て本人管理も対応している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話連絡を希望する場合は施設電話(子機)を使用して対応している。手紙のやり取りも個別に対応している。年賀状は入居者全員が、家族や知人等に送れるよう支援している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節ごとの花や入居者が手入れしている盆栽を置いている。ソファの設置にて、心地よく過ごしている。	利用者が自宅で大切に育てた盆栽や職員の手による生花に気持ちもほぐれ、居るだけで穏やかになれる共用空間です。リゾート感のあるハードにも拘らず、利用者と職員が「風鈴をつくりたい」と成れば、やや幼稚にも映るクラフトも飾っていて、自由度が高いことも見てとれます。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	本人の希望や気の合う仲間との関係にも配慮し、食事テーブル席を検討している。同テーブルの人との談笑、協力し合って過ごしている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	以前からの使っていた物や馴染みの物、嗜好品を増やし自分らしい部屋・環境作りに努めている。	電気スタンドや本に囲まれて自室を書斎のように暮らす人もいれば、衣類のみの持ち込みといった人もいて、それぞれです。夫妻で入居の利用者は、夫が妻の部屋で語らうためのリクライニング式の籐椅子を置いていて、仲睦まじい様子が印象的です。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	床はバリアフリーで、歩行器や車椅子は自由に自走できる。廊下・浴室・トイレ等に手すりは設置している。		

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2296900075	
法人名	医療法人社団木野記念会	
事業所名	グループホームつどい 2階ユニット	
所在地	静岡県磐田市一色25-1	
自己評価作成日	平成30年6月18日	評価結果市町村受理日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaijokensaku.mhlw.go.jp/22/index.php?action_kouhou_detail_2017_022_kani=true&JigyosyoCd=2296900075-00&PrefCd=22&VersionCd=022
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社第三者評価機構 静岡評価調査室	
所在地	静岡県葵区材木町8番地1 柴山ビル1F-A	
訪問調査日	平成30年7月10日	

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

施設内に生け花を設置。外の芝生広場には約30鉢の盆栽があります。梅や桜、つつじにバラ、紫陽花、秋には紅葉ドライブへと外出。敷地内の畑では、じゃがいもに始まり夏野菜(なす・ピーマン・トマト・南瓜…)やさつま芋と、土作りから秋の収穫まで一年を通して農作業を行っています。外の空気に触れ、四季折々の花木観賞や自分達で収穫した新鮮野菜を食し、四季を感じて過ごしています。また恒例行事となる夏の流しそめんや秋の焼き芋・芋煮会も入居者・ご家族・地域の皆様と一緒に楽しんでいます。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

法人全体が「朝8時～10時くらいの朝陽を浴びる」ことを推奨しています。海の家にあるような葦葦でつくった涼み処で和む人たち、畑の胡瓜を収穫して「やれやれ」とひと休みのグループと朝から活動に弾みがあり、訪れる人たちにも目で利用者の壮健さがわかります。畑は胡瓜のほかにゴーヤ、ミニトマト、ピーマン、南瓜と豊作で、今年は「火曜日と金曜日を畑で採れた夏野菜を使ったメニュー」として、太陽の恵みがたっぷり詰まった食事が提供されています。地域との関係も年々深まり、津波避難の場所としての認識が生まれたことで、防災訓練では南田地区から年々参加者が増えています。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごしている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I.理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	施設理念を玄関や2Fエレベーターホール、スタッフ室内に掲示して、理念の実現に向けて努力している。		
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一人として日常的に交流している	法人合同開催による夏祭りや、地域の秋祭りへの参加、年2回実施する地域交流会の開催。地域防災訓練にて、地域の避難場所として施設の屋上も利用されている。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域ケア会議への参加を通して事業所の特徴を知っていただく。運営推進会議にて日頃の活動報告をしている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	会議では日々の生活の様子や活動状況を報告している。皆さまのご意見を参考にしてサービスの向上につなげている。		
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	月初めに入居状況の報告をしている。市職員への相談・助言・指導を受けて対応している。		
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	施錠はせず職員で協力して見守り対応している。同法人内の勉強会に参加し理解を深めている。委員会を設置し、運営推進会議での検討・報告をしている。		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	定期的に勉強会への参加にて、防止に努めている。		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	定期的な勉強会への参加にて理解を深めている。現在、成年後見制度を利用されている方もあり、保佐人と連絡をとり合って支援している。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入居前に重要事項説明書・契約書を交付し、説明と同意を得ている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	苦情・意見箱を設置し、窓口を明確にしている。		
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	日に30分程度時間を要し様々な内容の会議を行っている。意見交換や情報の共有を図っている。年2回の職員面談を実施している。		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	就業規則に準じて働きやすい環境作りに努力している。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	職員教育チェックリストにて定期的に確認している。同法人内で開催される勉強会への参加。認知症介護実践者研修等外部研修への参加も進めていく。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	事業者連絡会議や地域ケア会議への参加。地域包括支援センターと地域密着型事業所の代表者が集まって話し合い、情報交換している。		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	安心して入居できるように、場合によっては複数回の面接機会を設けて対応している。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	いつでもご相談受けることを説明し、可能な限り時間外での対応・訪問も受けられるように努力している。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	相談を受けた際、併設施設の医師や看護師、OT、栄養士等と連携し、その方に合ったサービス提供が出来るように努力している。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	基本理念のもと、個人を尊重し支え合いを大切に生活支援に努めている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	面会時は本人とゆったり過ごしていただける配慮をしている。個人アルバムを作成し面会時ご家族に報告している。施設のお便りにて活動報告をしている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	馴染みの場所(美容室など)や友人との交流が継続できる支援を心掛けている。		
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	食事テーブル席を工夫して良好な関係作りに努めたり、外出時のグループ分けにも配慮している。		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	電話連絡にて状況確認をしたり、年2回開催する地域交流会の案内をお知らせしている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	聞き取りによる意向と日々の行動を照らし合わせて、言葉にならない思いを感じ取り、都度意向の確認をするように努めている。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	本人からの聞き取りや家族・ケアマネからの情報をすり合わせて、今までの暮らしの把握に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	包括的自立支援プログラムやセンター方式でのアセスメントを実施している。計画作成者だけでなく各担当者もアセスメントを行っている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	日に30分設定している会議にて個別援助計画を発表、必要時にモニタリングや介護計画の見直しを行っている。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	記録マニュアルにそって個別記録を記入している。また申し送り事項を事前にも確認することで情報収集を行い、日課のチェックリストで実践に活かしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	個人の体調・状態であったり、本人の希望に応じて生活支援している。受診や外出等も可能な限り対応している。		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	消防・地域包括・市役所・自治会等意見交換している。ボランティア団体による行事も計画。地域住民へ参加の呼びかけをしている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人や家族の希望を重視し、かかりつけ医師の継続と受診の付き添いを行い、緊急時の対応について予め主治医に確認をしている。		
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	併設施設の看護師が週2～3日訪問。日常的な健康管理や状況に応じた連絡・相談体制が整い、24時間連携できている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入居可能な状態か病院や家族との情報を集約し、担当医師や看護師とも相談し、今後の受け入れについて検討している。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所のできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居契約時に、重度化した場合の対応に係る指針を家族へ説明と同意を得ている。また救急搬送時の情報提供書についても年度毎に確認・更新している。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	同法人内で行われる救急法講習会に参加している。緊急時の対応マニュアルは、いつでも見られるようスタッフ室に用意している。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回の避難訓練以外にも、津波に備えて階段を使用して入居者を2階へ誘導する訓練を、全職員が参加するようにしている。地域防災訓練では、地域住民が施設の屋上へ上がり活用している。		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	人格を尊重した言葉かけや対応に配慮している。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	本人の訴えに耳を傾け、望みを汲み取り、出来る限り意にそえるよう支援している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	個人のペースに合わせた対応を心掛けているが、趣味・嗜好活動の提供について課題があり、委員会担当を決めて取り組んでいる。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	本人の希望や定期的な理美容を行っている。季節ごとの衣替えは、家族とも相談しながら、本人の好みを尊重した調整をしている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	献立表を設置し、嗜好に合わせて個別の対応をしている。食事の支度・片付け等出来る範囲で職員と一緒にを行う。月2回の料理人訪問にてセレクトメニューも充実している。		
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	併設施設の管理栄養士から助言をいただいたり、食材はカロリーや塩分バランスが整っている宅配業者を利用。畑で収穫した新鮮野菜も。食事・水分量のチェック、個人に合わせた補助食も使用している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	併設施設の歯科衛生士の指導・助言の下、口腔ケア・口腔内の確認をしている。		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄表を活用して、個別援助の実施。本人や家族の希望に沿った対応をしている。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	毎日の散歩・体操にて身体を動かしている。毎晩、ヨーグルトをつけて便秘予防に努めている。個別の排便表を作成し対応している。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	個人の希望・都合・気分等に合わせて、柔軟な対応にて入浴している。		
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	午前・午後と休息時間を設けている。就寝時間は本人の希望に合わせて対応している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	個人の内服薬管理、服薬表を療養記録に保管し、職員がいつでも確認できるようにしている。健康状態に応じて主治医と連絡をとり、医師の指示にて内服支援している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	本人の負担にならない程度に、お掃除や食事支度・後片付け・洗濯等、個人の役割をもって行っている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	本人や家族の要望に応じて対応している。買物や旅行・地域行事への参加ができるように取り組んでいる。		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	基本は施設で管理している。希望される方は、本人・家族と相談し、同意を得て本人管理も対応している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話連絡を希望する場合は施設電話(子機)を使用して対応している。手紙のやり取りも個別に対応している。年賀状は入居者全員が、家族や知人等に送れるよう支援している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節ごとの花や入居者が手入れしている盆栽をおいている。ソファの設置にて、心地よく過ごしている。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	本人の希望や気の合う仲間との関係にも配慮し、食事テーブル席を検討している。同テーブルの人との談笑、協力し合って過ごしている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	以前からの使っていた物や馴染みの物、嗜好品を増やし自分らしい部屋・環境作りに努めている。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	床はバリアフリーで、歩行器や車椅子は自由に自走できる。廊下・浴室・トイレ等に手すりは設置している。		